

神戸大学附属図書館
平成26年度資料展



展示品目録

【第2期】

平成26年12月24日(水)

～平成27年1月29日(木)

社会科学系図書館

2階 展示コーナー

3階 震災文庫

1. 神戸で何が起こったか

写真: 崩れた国道43号岩屋
高架橋から落ちたトラック。
(前田耕作撮影)



No.	展示資料名(○-○)/パネル資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	請求記号等
1-1	『阪神・淡路地震阪神大震災地図』	地図	1995(平成7)年	日本地図学会の調査員が震災直後の被害状況をまとめた地図。建物倒壊、火災、液状化現象、崩壊などの被害が色別で示されている。	震災-1-15
1-2	『阪神大震災・被災した私たちの記録』ほか手記10冊	図書	1995(平成7)年-2004(平成16)年 阪神大震災を記録しつづける会編	「阪神大震災を記録しつづける会」により出版された、被災者の手記集。震災発生年から10年間という長期にわたり、一年ごとの刊行が続けられ、編集者と執筆者の対話から多様な体験記が生み出された。	震災-16-27ほか
1-3	幼稚園児の手記 [レプリカ]	文書	1995(平成7)年	震災体験の募集に応募した手記の一つ。字を書くこともままならない幼稚園児が、震災に関し、体験を書き残している。	人と防災未来センター
1-4	『あなたのことを忘れない神戸大学四十四人への追悼手記：特集震災から一年』	図書	[1996(平成8)年] [UNN関西学生報道連盟, 神戸大学ニュースネット委員会編]	神戸大学NEWS NETが編集した、震災で命を失った神戸大学の学生・教職員44名への追悼手記。	震災-16-556
パネル	朝日新聞(大阪)1月17日貼出し速報	新聞	1995(平成7)年	紙面上方、「01/17 835:56」の記載から、1月17日8時35分56秒に印刷され、号外が配布される前に貼り出されたものと推察される。	00004953
パネル	崩れた国道43号岩屋高架橋から落ちたトラック。	写真	1995(平成7)年 前田耕作撮影『阪神・淡路大震災(記録写真)』	国道43号線は、大阪市と神戸市を結ぶ幹線道路。真上に阪神高速神戸線が走っており、43号線は高架橋の落下・倒壊により6か所程の被害を受けた。	00190342
パネル	明石市で発行された被災証明書	文書	1995(平成7)年	「り災(被災)証明書」は、被害調査を行った上で発行され、義援金の給付等に用いられた。明石市では95年2月12日から建物被害調査が開始された。	人と防災未来センター
パネル	JR線わきの灘南仮設住宅	写真	2002(平成14)年 大木本美通撮影『震災記録写真』No.4	灘区内には約1,000戸の仮設住宅が建てられた。灘南仮設はそのうちのひとつで、入居者の半数が60歳以上、約4分の1の世帯が一人暮らしだった。	00154180
パネル	長田区西代通2丁目で、長田区西代通4丁目あたり [2枚]	写真	2002(平成14)年 大木本美通撮影『震災記録写真』No.1	震災当日の朝、出勤途中に長田区西代通で撮影された写真。古い木造家屋が多かった長田区は、倒壊・火災で大きな被害が出た。	00145343 00145345
パネル	管理棟屋上から市街を望む、神戸市街の状況を遠望	写真	1996(平成8)年 『兵庫県南部地震による神戸大学附属図書館被害状況写真集』	震災当日午後2時頃、現・社会科学系図書館管理棟の屋上から市街地を撮影した写真である。	00181330
パネル	地震発生直後の自宅ベランダから南西方向距離200メートルの猛火を見る。...	写真	2002(平成14)年 谷通好撮影『震災被災記録写真』	震災当日の朝、灘区八幡町の自宅ベランダから撮影された写真である。	00091971
パネル	崩れた国道43号岩屋高架橋から落ちたトラック。積んでいたみかんが一面に...	写真	1995(平成7)年 前田耕作撮影『阪神・淡路大震災(記録写真)』	大阪市西成区から神戸市灘区までを横断する国道43号線において、道路が崩れ、トラックの貨物であったミカンが散乱する様子が撮影されている。	00190343
パネル	さくら銀行山手支店から北への坂道あがったあたり。自衛隊がガレキの撤去作業に...	写真	2002(平成14)年 大木本美通撮影『震災記録写真』No.1	災害派遣の自衛隊がガレキを撤去している。全半壊を合わせ約25万棟の人家が被害を受け、自衛隊が倒壊家屋の処理を進めた。	00146425
パネル	震災後改築されたそごう神戸店のオープンに大勢の人が列を作った。...	写真	1995(平成7)年 前田耕作撮影『阪神・淡路大震災(記録写真)』	震災後、改築を行っていた「そごう神戸店」の営業が再開された。営業再開を待ち望んでいた人々が長蛇の列をつくった。	00229667
パネル	メリケンパークの東岸壁。後に震災モニュメントとして永久保存となる...	写真	2002(平成14)年 大木本美通撮影『震災記録写真』No.1	神戸ポートタワーや海洋博物館があるメリケンパークの東岸壁は、現在、震災のモニュメントとして保存されている。	00145894
パネル	地震で壊れた国際会館。(1995年3月2日撮影)	写真	1995(平成7)年 前田耕作撮影『阪神・淡路大震災(記録写真)』	震災により全壊等の被害を受けた国際会館が再建された。再建前後によって異なる姿を見比べることができる。	00145894
パネル	完成した新国際会館(1999年4月22日撮影)	写真	2002(平成14)年 大木本美通撮影『震災記録写真』No.4		00190373
パネル	『阪神・淡路地震阪神大震災地図』上に配置された写真 14枚]	写真	1995(平成7)-2002(平成14)年 前田耕作, 大木本美通, 谷通好, 進藤裕之, 和田幹司撮影	震災直後の調査による『阪神・淡路地震阪神大震災地図』上に写真資料を配置し、当時の被害状況を可視化した。	00190358 ほか

2. 神戸大学と震災



写真：国際・教養系図書室
の倒壊した書架

No.	展示資料名/パネル資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	請求記号等
2-1	『KUBC PRESS』1995(平成7)年1月30日「号外」 「神大生39名が犠牲に」	新聞	2000(平成12)年 UNN関西学生報道連盟 [ほか]編『大学新聞が伝えた阪神大震災：縮刷版』	UNN関西学生報道連盟が報じた震災関連紙面のまとめ。UNN発の震災後第1報は、1月23日付の週刊FAX新聞「キャンパスWEEKLY」だった。	震災-8-362
2-2	神戸商船大パワーで100人以上を救出	図書	1996(平成8)年 日本消防協会編『阪神・淡路大震災誌』	神戸商船大学白鷗寮の当時の自治会長に対するインタビュー記事。12時間にわたって救出活動を行った結果、100人以上の命が救われた。	震災-5-184
2-3	発足にあたって：阪神・淡路大震災の発生、被災、復興と防災にかんする総合的研究組織	文書	1995(平成7)年	1995年2月23日に研究組織が発足した時のチラシ。多面的な分析と学際的な研究が必要となるため、学部を問わず参加を募る文面となっている。	震災-8-s462
パネル	国際・教養系図書室2階開架閲覧室	写真	1996(平成8)年 『兵庫県南部地震による神戸大学附属図書館被害状況写真集』	附属図書館も書架の倒壊など大きな被害を受け、散乱した図書は全体で約100万冊にのぼった。全国の図書館員がボランティアとして復旧作業に参加した。	00181284
パネル	広島大学・岡山大学による炊き出し支援	写真	1995(平成7)年 神戸商船大学『阪神・淡路大震災関連写真』	神戸商船大学でも、全国の大学職員の応援があった。特に広島大学からは、海路により救援物資や医療スタッフの派遣を受けた。	10105172
パネル	神戸大学の体育館で避難生活を続ける人たち。	写真	1995(平成7)年 前田耕作撮影『阪神・淡路大震災(記録写真)』	神戸大学では、7部局で避難者約2,550名を受け入れ、神戸商船大学では、体育館・武道館と学生寮で約1,060名を受け入れた。	00002860
パネル	『ひなん新聞：神戸大学体育館・避難所』no.1	新聞	1995(平成7)年	国際文化学部体育館における避難住民による新聞。避難所では最大1,600名が生活を送っていた。不自由な中、状況改善への努力が伺える。	震災-5-v15
パネル	雪御所公園救護所	図書	1995(平成7)年 神戸大学医学部震災記録委員会編集『阪神・淡路大震災神戸大学医学部記録誌』	神戸大学附属病院では、混乱した状況の中、多くの医療スタッフ・学生ボランティアが、救護所や避難所の巡回などで活躍した。	震災-8-71
パネル	神戸大学医学部救急医療団救護所開設のお知らせ	文書	1995(平成7)年	神戸大学医学部救急医療団は、テントで診療活動を行った。延べ約150名の医師等が派遣され、320名もの学生ボランティアが活躍した。	人と防災未来センター
パネル	平成7年1月30日以降の全学共通授業科目の授業計画等について(通知)	文書	1996(平成8)年 神戸大学庶務部庶務課編『兵庫県南部地震による震災の記録』	震災発生以降、授業は自動的に休講状態となった。1月30日から2月2日にかけて、学部ごとに「授業再開に向けての説明会」が開催された。	震災-8-90
パネル	亡くなった友達の冥福を祈る	図書	1995(平成7)年 留学生震災文集編集委員会編『忘れられない…あの日：神戸からの声：留学生たちの震災の体験談』	震災当時の神戸大学の留学生は552名。そのうち7名が死亡、119名が住居を失った。孤独や言葉の壁など、多くの困難に見舞われたと思われる。	震災-16-47
パネル	友情の絆(抜粋)				
パネル	救援隊スタッフ募集チラシ	文書	1995(平成7)年	神戸大学学生震災救援隊は、「市民パトロール」や炊き出しのほか、野外仮設風呂やフリースクール「寺子屋」の運営など、多様な活動を行っていた。	震災-7-s522
パネル	『K-U.V.C. News letter』創刊号	雑誌	1995(平成7)年	神戸大学総合ボランティアセンターは、震災で活動したメンバーを中心に設立され、その後の学生ボランティア活動を推進した。	震災-7-274
パネル	『阪神大震災における災害ストレスの実態調査：研究実績報告書』	図書	1995(平成7)年 城仁士著	自らも被災した発達科学部・城仁士教授が、被災者のストレスを調査・分析した研究報告。「簡易ストレス度チェックリスト」が掲載されている。	震災-10-20
パネル	『兵庫県南部地震に関するアンケート調査：集計結果報告書』	図書	1996(平成8)年 神戸大学工学部建設学科土木系教室耐震工学研究室兵庫県南部地震アンケート調査分析グループ[編]	工学部・高田至郎名誉教授(当時教授)の研究チームは、被災地を区域に分けてアンケート調査を行い、その後の防災計画に指針を与えた。	震災-1-207
パネル	『大震災と歴史資料保存：阪神・淡路大震災から東日本大震災へ』	図書	2012(平成24)年 奥村弘著	文学部・奥村弘教授による被災資料の保存活動は、その後の新潟県中越地震、東日本大震災にも引き継がれていった。	震災-15-335
パネル	『阪神大震災研究』1-5	図書	1995(平成7)年-2002(平成14)年	学際的な有志により、震災に関する研究会が開催され、学生および聴講参加者に内容を報告。その成果として『阪神大震災研究』1-5が発行された。	震災-1-47

3. 震災文庫—成長の軌跡と舞台裏—

写真:「震災文庫」
公開時のポスター



No.	展示資料名/パネル資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	請求記号等
3-1	《附属図書館では》阪神大震災関係の資料を収集!	ポスター	1995(平成7)年	1995年6月には、学内に向けて寄贈依頼の広報を始めた。寄贈された資料は、エッセイや論文、調査報告書など、種類も多様である。	震災-8-s52
3-2	『ああ、阪神大震災-甦れ! わが故郷-』	図書	1995(平成7)年	寄贈により震災文庫の資料となった、記念すべき第一号。登録日は、1995年6月26日となっている。	震災-16-3
3-3	[デジタル化・二次利用された資料の例(写真6点)]	写真	1995(平成7)年 和田幹司撮影 [震災写真集:長田区付近]	震災文庫に寄贈された資料(写真)を例に、デジタル化から二次利用までの流れを紹介。当時の寄贈写真は、ほとんどがネガやプリントだった。	震災-1-v1
3-4	資料デジタル化許諾依頼のはがき	文書	1999(平成11)年	デジタル化許諾の依頼は公文書として行う。回答は依頼文書に同封した回答用はがきに○をつけて返送される。	電子図書館係
3-5	[二次利用許諾依頼のやりとり]	文書	2014(平成26)年	二次利用申請は、ホームページに設置された投稿フォームに必要事項・希望内容を入力すると、図書館側にメール形式で自動送信される。	電子図書館係
3-6	[デジタルアーカイブ資料の二次利用例]	図書	2014(平成26)年 国立歴史民俗博物館編 『歴史にみる震災:企画展示』	依頼者には、該当撮影者から包括的許諾を得ている旨を回答。その後、写真の掲載された展示図録が寄贈され、震災文庫に所蔵された。	震災-15-369
3-7	[デジタルアーカイブ動画]	動画	1995(平成7)年 國頭玲子撮影	震災文庫のうち約1割(5,000件弱)がデジタル化され、インターネット上で公開されている。この動画は震災当時の様子を撮影したものの。	震災-9-316
パネル	(伺)阪神・淡路大震災関係資料の収集計画について	文書	1995(平成7)年	震災後間もない平成7年5月頃の起案文書。館長はじめ当時の管理職、担当者の押印が見られる。震災文庫の萌芽ともいえる文書である。	電子図書館係
パネル	(案)阪神・淡路大震災関係資料の収集計画について(依頼)	文書	1995(平成7)年	上記起案の別紙。資料収集に対する協力依頼文書の原案だが、「網羅的収集」など、震災文庫のキーワードとなる言葉が既に出てきている。	電子図書館係
パネル	《神戸大学附属図書館で》『震災文庫』一般公開!	ポスター	1995(平成7)年	震災発生から9ヶ月という異例の早さで、震災文庫が一般公開された時のポスター。大学図書館が一般市民に公開される先駆けでもあった。	震災-8-s51
パネル	震災文庫パンフレット 1995年版	パンフレット	1995(平成7)年	職員の手作業で作られたこのパンフレットは、兵庫県花である「のじぎく」をハート形にアレンジし、人の心の優しさが伝わるようにデザインされている。	震災-8-s790
パネル	『震災文庫』分類表	文書	1995(平成7)年	震災文庫では通常の図書の分類法がなじまないため、16類目からなる独自の分類法を考案し、現在に至るまで用いられている。	電子図書館係
パネル	研究計画調書	文書	1996(平成8)年	研究の概要としてデジタル化やインターネット公開にも触れられており、いち早くネットを活用したサービス展開を視野に入れていたことがわかる。	電子図書館係
パネル	研究内容・成果概要報告書	文書	1996(平成8)年	インターネットの活用方法や、デジタル化等の資料保存方法について、更なる研究が必要と報告されており、最新技術に対する積極的な姿勢が窺える。	電子図書館係
パネル	助成金決定通知書	文書	1996(平成8)年	震災文庫活動のための資金源として、学内経費のみならず、外部資金も積極的に取り入れられた。平成8年には300万円の助成を受けた。	電子図書館係
パネル	日本都市計画学会から原資料寄贈の申し出について(メモ)	文書	1996(平成8)年	他機関との連携の一例として、資料の寄贈があげられる。当該資料は、大判の地図資料などが大量に寄贈された際のもの。	電子図書館係
パネル	『震災文庫』における地図等の1枚物資料の保存方法について	文書	1996(平成8)年	寄贈された地図資料は、「エンキャプスレーション」という、当時日本では前例のなかった方法で処理され、現在に至るまで良好な状態で保存されている。	電子図書館係
パネル	(伺)「一枚もの資料」デジタル化に伴う著作権者の承諾について	文書	1998(平成10)年	インターネットでデジタル画像を提供するにあたって、著作権者の許諾が必要になる。当該資料は、許諾依頼業務の準備を開始した年の起案。	電子図書館係
パネル	平成11年度科学研究費補助金「研究成果公開促進費」(データベース)交付決定通知書	文書	1999(平成11)年	電子図書館事業は、平成11年から6年間にわたり、科学研究費補助金の交付を受けた。この資金は各種データの作成に活用された。	電子図書館係

4. …そしていま



写真：神戸の壁
(大木本美通撮影)

No.	展示資料名/パネル資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	請求記号等
4-1	『阪神・淡路大震災における避難所の研究』	図書	1998(平成10年) 柏原士郎, 上野淳, 森田孝夫編著	震災で住居を失った被災者も多く、避難所はすぐに満員となった。公園や路上でテント生活せざるを得ない人々も多く存在した。	震災-5-299
4-2	『阪神・淡路大震災10年報道』	図書	2005(平成17年) 神戸新聞社編	震災における死因の大半は、倒壊物による圧死だった。また水道の寸断により、火災による死傷者も数多く出た。	震災-14-175
4-3	『協働と参画のまちづくり：安全・安心で快適に暮らせるまちづくり：神戸国際港都建設事業：震災復興土地区画整理事業』	図書	2012(平成24年) 神戸市[編]	神戸市内では、道幅の狭い場所で救助車両の通行障害などが発生して、被害が拡大した。震災後は、区画整理の際に道幅を広げるなどしている。	震災-4-1803
4-4	『石の綿：マンガで読むアスベスト問題』	図書	2012(平成24年) 松田毅, 竹宮恵子編	神戸大学と京都精華大学が協力。「20世紀最大のストック型公害」アスベスト問題の理解を広めるため、被害の歴史と現状をわかりやすいマンガで描いた。	震災-4-1828
4-5	『マンガで読む震災とアスベスト』	図書	2014(平成26年) 神戸大学倫理創成プロジェクト, 京都精華大学機能マンガ研究プロジェクト制作	『石の綿』に続くブックレット。学生が東北被災地で活動する姿を通し、震災におけるアスベストのリスクと防護の方法を分かりやすく伝えている。	震災-4-1811
4-6	「はるかのひまわり」の種	現物資料	[2014(平成26年)]	「はるかのひまわり絆プロジェクト」が配布している、ひまわりの種。人々の手によって日本中に配布され、東日本大震災の被災地にも数多く植えられた。	「はるかのひまわり絆プロジェクト」提供
4-7	慰霊と復興のモニュメント：建設募金のお願い	チラシ	1998(平成10年)	「慰霊と復興のモニュメント」は、震災の翌年に懇話会が発足、その後1年間の募金活動を経て、2000年に約1億5千万円の浄財をもって建設された。	震災-7-s434
4-8	電通関西支社が「神戸ルミナリエ」の反響調査を実施(速報)	パンフレット	1995(平成7年)	第1回「神戸ルミナリエ」開催中に実施された調査。11日間の来場者数は延べ254.3万人、周辺の売り上げ効果も大きく、復興の励みになった、とある。	震災-13-v20
パネル	コンビニエンスストアには長蛇の人の列ができた。	写真	1995(平成7年) 前田耕作撮影	わずかに残った食料や飲料を求め、人々はコンビニエンスストアに殺到した。道路にあふれた水を汲む人や、川で洗濯を行う被災者も現れた。	00190340
パネル	『阪神・淡路大震災自衛隊災害派遣集：1月17日、午前5時46分(激震)』	図書	1995(平成7年)	消防や警察、自衛隊の救援活動は、既存の制度問題もあり、必ずしもスムーズには進まなかった。この経験の後、公的機関においても防災への意識が大いに高まった。	震災-5-203
パネル	『阪神大震災活動記録：未曾有の災害体験、消防職員の声そして思い：阪神大震災消防活動記録報告書』	図書	[1995(平成7年)] 毎日事業社制作		震災-5-216
パネル	『防災基本計画』	図書	1995(平成7年) 中央防災会議, 国土庁防災局編		震災-5-63//1995
パネル	神戸大学社会科学系図書館における災害用備蓄品の一部	写真	[2014(平成26年)]	当時の教訓を基に非常食等の備えを行うことが一般的になったが、避難所として活用される神戸大学でも災害用備蓄品は備えられている。	(担当者撮影)
パネル	北長狭通2丁目3あたりの飲食店街が更地に	写真	1995(平成7年) 大木本美通撮影	瓦礫や被災建築の撤去後、更地を活用して道幅を広げるなど、住みやすかつ防災機能を持った都市の開発が進められた。	00315533
パネル	HABIE現地事務所	写真	1995(平成7年)		
パネル	HABIE大阪本部事務所出発前の打ち合わせ	写真	HABIE(阪神大震災・視覚障害被災者支援対策本部)撮影	被災地に入ったボランティアは2ヶ月間でのべ100万人を超えたとと言われる。震災をきっかけにボランティア活動が定着する環境や法制度が整い、文化として定着した。	00229772
パネル	ボランティア募集のお知らせ	文書	[不明]		人と防災未来センター
パネル	宝塚市立長尾中学校 防災教育カリキュラム	文書	1998(平成10年)	「震災の経験と教訓を生かす」をキーワードに、神戸では防災教育の取り組みが続けられてきた。地域においては、広報紙や防災ゲーム、アニメ教材なども製作され、防災教育に役立てられている。	人と防災未来センター 震災-8-583
パネル	『明日に生きる』	図書	2012(平成24年) 兵庫県教育委員会編		
パネル	神戸市新長田南地区割図	地図		新長田駅周辺の復興まちづくり事業は完了が遅れており、唯一、今も継続されている。完成したビルも様々な問題を抱え、厳しい状況が続いている。	神戸市HP
パネル	アスタくにつか3番館	写真	[2014(平成26年)]		
パネル	大正筋商店街	写真			
パネル	4月7日号生活情報 家電製品(8)パソコンなど、アスベスト	文書	1995(平成7年)	健康被害を引き起こすアスベストは、震災で倒壊建物から飛散したことが報告されており、当時のボランティアや市民も曝露したと考えられている。	人と防災未来センター

No.	展示資料名/パネル資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	請求記号等
パネル	慰霊と復興のモニュメント [2枚]	写真	[2014(平成26)年]	「慰霊と復興のモニュメント」は、2000年に設置された。地下には「瞑想空間」が設けられ、その壁には犠牲者の名前を刻んだ銘板がはめ込まれている。	(担当者撮影)
パネル	東遊園地内に震災モニュメント 慰霊碑が完成	写真	2000(平成12)年 大木本美通撮影		社会科学系図書館
パネル	1.17希望の灯り	写真	[2014(平成26)年]	1998年以来開催された慰霊イベントの灯りは、「1.17希望の灯り」と命名され、恒久的に灯されることになった。その後、東日本大震災の被災地を始めとする各地にも分灯された。	(担当者撮影)
パネル	阪神・淡路大震災1.17のつどい	写真	[2014(平成26)年]		神戸市HP
パネル	岩手県大槌町の「希望の灯り」	写真	[2014(平成26)年]	神戸市東灘区に加藤はるかさん(当時11歳)は、自宅で被災して命を失った。その自宅跡地に咲いた花は「はるかのひまわり」と名付けられ、今も種が全国に配られている。	大槌ライブクラブHP
パネル	絵本になった「はるかのひまわり」	図書	2005(平成17)年 指田和子作、鈴木びんこ絵 『あの日を忘れないはるかのひまわり』		震災-16-744
パネル	東日本大震災で被災した宮城県南三陸町に咲く「はるかのひまわり」	写真	2011(平成23)年		「はるかのひまわり絆プロジェクト」提供
パネル	震災翌年(1996年)の「神戸の壁」	写真	1996(平成8)年 大木本美通撮影	1927年ごろ、神戸市長田区に建てられた防火壁は、その後の神戸大空襲、阪神・淡路大震災にも崩れず、「神戸の壁」と名付けられた。現在は淡路市に移設され、保存が図られている。	00151972
パネル	淡路島に保存されている「神戸の壁」	写真	[2014(平成26)年]		北淡震災記念公園HP
パネル	第1回(1995年)神戸ルミナリエの様子	写真	[1995(平成7)年]	第1回の神戸ルミナリエ開催時は、まだ到る所に廃墟や瓦礫が残っており、そうした中に立ち現れた光の芸術は、多くの人々に希望と感動を与えた。	神戸ルミナリエ組織委員会事務局提供
パネル	ルミナリエ特集 [神戸新聞第2朝刊 1995.12.15付]	新聞	1995(平成7)年	第1回の際の新聞特集記事。ルミナリエがまだ馴染みのないことから、歴史的な解説のほか、イタリア職人の作業風景なども紹介されている。	震災-13-v95

5. 「震災文庫」会場展示

写真:震災文庫HP



No.	展示資料名/パネル資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	請求記号等
5-1	阪急電車 神戸線列車運行図表	図表	1995(平成7)年	震災により阪神間の鉄道は寸断されたが、可動区間のみの運行、代替バスの振替輸送などにより、急場をしのいだ。その後は懸命の復旧作業により、年内6月までには各社とも運転を再開できた。展示品は阪急電鉄に関するポスター等で、当時の鉄道の困難な状況が良く伝わる資料群である。	震災-13-v93
	お知らせ：西宮北口発御影行き代替バスのご利用について	ポスター	1995(平成7)年		震災-13-s210
	阪急電鉄 震災直後の社告	ポスター	1995(平成7)年		震災-13-s216
	阪急電車全線開通お知らせ	ポスター	1995(平成7)年		震災-13-s217
5-2	阪神大震災対策救護活動 神戸市東灘保健所 [腕章]	現物資料	[1995(平成7)年]	ボランティアや救護班に使われた腕章。腕章全体に見られる汚れが、この資料をして震災の「物言わぬ証人」たらしめているように思われる。震災文庫では、こうした現物資料も収集している。	震災-10-s109
	あしやボランティア [腕章]	現物資料	[1995(平成7)年]		震災-7-s228
5-3	Paris Match. no.2383, 2384	雑誌	1995(平成7)年	フランスの週刊誌『Paris Match』における、震災発生直後の報道。震災被害の凄まじさは、世界中でも大きな衝撃をもって取り上げられた。	震災-1-z45
5-4	阪神・淡路大震災(記録写真)	写真	1995(平成7)年 前田耕作撮影	震災発生の日から、同年9月にかけての写真集。震災当時の様子が生々しく活写されている。	震災-1-v11
5-5	[東灘区内]仮設住宅アンケート[記入用紙綴り]	文書	1995(平成7)年	仮設住宅に入居した被災者に対するアンケート。仮設住宅に問題は多々あるが、プライバシーが確保されたので安心できるという回答が多い。	震災-6-v251
5-6	災害用避難生活用品セット(男性用と女性用)	現物資料	[1995(平成7)年?]	静岡県伊東市から被災者に対して配布された救援物資と思われる。避難所での苦しい生活が偲ばれる保存資料である。	人と防災未来センター